

-----5月9日-----

今週のアウトルック (5/9 ~ 5/13)

先週はピンラディン死亡報道やFOMC、米国雇用統計に大きく動かされた週でした。

週初のピンラディン死亡報道では一時的にリスクテイク的な気運が高まり、少し円安が進みました。

その後、水曜日のADP雇用統計、木曜日の新規失業保険申請件数とネガティブな結果となり、米国雇用統計の結果予想に暗雲が立ち込め、ドル円は80円割れまで円高が進みましたが、金曜日には一転して米国雇用統計が好結果となり、ドルは一気に買われました。その後、大きく戻してはいますがドル売り一辺倒のトレンドには変化があらわれたようです。

一方、FOMCでは、ECB議長から今後の利上げ継続に対して肯定的な発言がなかったため、ユーロは一気に売られました。

今週はユーロ売りがとこまで続くのか、ドルの買い戻しがどの程度まで進むのか、ギリシャのユーロ離脱憶測からのリスク回避的な動きはどの程度進むのか、目が離せない展開となりそうです。

ドル円は金曜日に雇用統計の好結果から、一時81円近くまで回復しました。ギリシャの情報からのリスク回避的な動きにより、80.6円あたりまで戻してはいますが、今までのドル売リトレンドがターニングポイントを迎えた感じはあります。

今週はユーロドルのドル買い戻しがどこまで進むのかによって、ドル円も戻りも大きく変わりそうですが、再び80円割れを狙うような動きにはなりにくいように思います。しかし、情勢変化が激しいため、一気にリスク回避的な動きが本格化した場合には、再び円高を警戒する必要があるようです。

ドル円の予想レンジは80円から82円です。

ユーロ売リトレンドはもう少し続きそうです。ユーロドルで1.42あたりで下げ止まるのか、それとも1.4あたりまで一気にユーロ売りが進むのか、下げ止まらずにユーロ売リトレンドはしばらく続いてしまうのか、見方が分かれるところですが、ギリシャ問題の今後も大きく関係してくるように思います。ギリシャだけに収まらず、ポルトガルやスペインなどのユーロ離脱に関する憶測が流れた場合には、ユーロに関しては要注意です。

ユーロ円の予想レンジは112円から117円です。

ポンドは、ユーロの下落とドルの買い戻しの中で難しい動きとなりそうです。方向感のない動きとなるかもしれません。

ポンド円の予想レンジは130円から134円です。

今週は、一気に売られている原油などの動きにも注意が必要です。コモディティのバブル崩壊的な気運が高まり、激しいユーロ売りからリスク回避的な状況に拍車がかかれば、再び大きく円高に変わる可能性も否定できません。十分注意が必要です。基本的には週末の雇用統計を睨んだ展開となりそうですが、昨年のようにGWの東京市場の薄商い時を狙った仕掛けには十分注意が必要です。

* 免責事項 *

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。